

教員の養成の目標及び当該目標を達成するための計画に関すること

1. 教員養成の理念

本学のディプロマポリシーでは卒業までに身につけるべきこととして、「人権意識に裏付けられた他者理解に基づくコミュニケーション」「国際社会や地域社会に積極的に関わる意欲」「社会の諸テーマの知識・理解力、外国語運用力、情報処理などの汎用的技術の獲得」を挙げている。これらを礎として、教員養成課程では、1) 豊かな人間性と社会性を育む教育理念をもとに厳しく鍛えられた英語力を有し、未来を担う生徒の教育に貢献する人材、2) 教職課程（教育実習を含む）の学習を通して教育問題や教員の仕事の厳しさを知り、生徒および人間の根源的な理解を深めるとともに、自己の発見と自己の変革を実現する人材、3) 一社会人として、学校教育の価値を理解し、日本の未来を創る教育を支え発展させることに役立つ人材を育成することを目指す。

いつの時代にも教師に求められる資質能力として、「専門性」「人間性」「社会性」「広く豊かな教養」「職務に対する使命感・責任感」が求められているが、これらに加えて、本学では「コーディネート力」「創造性のある教育活動のプロデュース能力」「教材開発能力」「授業デザイン力」「協働して教育課題に立ち向かうための同僚性」の育成を教員養成の基盤概念とする。

特に、小規模校のきめ細かな教員養成プログラムを通して、教職志望者一人ひとりに教職の責任の重さをしっかり認識させると同時に、学習指導のための実践的なスキルの着実な習得を図り、小規模校ならではの教員養成課程モデルの構築を目指す。課題解決力が求められる時代において、多元的視点から多様な価値観を理解し、柔軟で人間的な奥行きのある教員の養成を目標とする。

2. 教職課程の目標

1年次では「教育学概論」「教職概論」「教育心理学」を履修することによって、教職に対する意識を高めると同時に、教科指導に必要な英語力の基盤を固める。2年次では、「教育の制度と経営」「特別支援教育概論」「教育課程論」「道徳教育の指導法」「総合的な学習の時間の指導法」「教育の方法と技術」「教育相談の理論と方法」「教育方法の理論と実践」「進路指導の理論と方法」を履修することによって、教職科目の学びを深める。並行して英語力・コミュニケーション能力の伸長に努める。3年次では、「英語科教育法」「特別活動の指導法」「生徒指導の理論と方法」を履修することによって、教科教育法を理論と実践の両面から探求し、教育実習に備える。4年次では、「事前事後指導」「教育実習」「教職実践演習」を履修することによって、教科指導の実践、実習および研究を進め、教職課程の学びの集大成とする。